

令和6年度
事業報告書

学校法人 村上学園

東 大 阪 大 学
東大阪大学短期大学部



目次

建学の精神と本学の使命	5
学園訓	5
本学の教育目的	5
本学の教育目標	5
3つのポリシー	
東大阪大学 アドミッションポリシー	6
東大阪大学 カリキュラムポリシー	6
東大阪大学 ディプロマポリシー	6
東大阪大学短期大学部 アドミッションポリシー	7
東大阪大学短期大学部 カリキュラムポリシー	7
東大阪大学短期大学部 ディプロマポリシー	8
I. 法人の概要	
1. 沿革	9
2. 法人事務局・学校所在地	10
3. 設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数	10
4. 役員・教職員等の概要	10
II. 事業の概要	
【東大阪大学・東大阪大学短期大学部】	11
1. 中期計画、経営改善計画実現への取り組み	11
2. 教育の質保証の取り組み	12
【東大阪大学】	
[1] こども学部こども学科	13
1. 在籍者数増加（募集力強化と退学者減少）	13
2. キャリア教育の充実	13
3. 教育者・保育者としてのICT活用能力育成	13
4. 地域連携活動の推進	13
5. 自己点検・評価	14
[2] こども学部国際教養こども学科	14
1. 学生募集活動の強化	14
2. クラブ活動と学業の両立支援	14
3. 語学教育の強化	14
4. 自己点検・評価	15
【東大阪大学短期大学部】	
[1] 実践食物学科	15
1. 栄養士コースおよび製菓衛生師コースの資格取得支援の充実	15
2. 入学前教育による学生の意識改革	15
3. 初年次教育、リメディアル教育とICT活用教育	15
4. 同法人内の両高等学校との高大連携強化	16
5. 地域との連携強化（産学連携）による実践教育	16
6. 各種コンテストへのチャレンジ	16
7. 自己点検・評価	16



[2] 実践保育学科	16
1. 学科の目標	16
2. 入学前教育の充実	17
3. 複数担任制	17
4. 資格取得	17
5. 地域連携活動の推進	17
6. キャリア教育の充実	17
7. 国際交流・留学生の受け入れ	17
8. 卒業研究発表の充実	17
9. 在籍者数増加（募集と退学者減少）	17
10. 3年制学生への支援	17
11. 自己点検・評価	18
[3] 介護福祉学科	18
1. 教育内容の充実と改善	18
2. 学生募集のさらなる強化	18
3. 学科発信の企画の充実	19
4. 自己点検・評価	19
【大学・短期大学部共通】	
[1] 教学支援部	19
1. 各学科カリキュラム変更への対応	19
2. 情報教育への対応	20
3. 第三者評価への対応	20
4. 自己点検・評価	20
[2] 学生支援部	20
1. 学生生活の安定と退学者防止	20
2. 学生生活の安心・安全や環境整備について	20
3. 障がい学生支援	20
4. 学生イベント・翔愛祭（大学祭）	20
5. 学生会・学友会の活性化	20
6. クラブ活動について	21
7. 自己点検・評価	21
[3] 入試広報部	21
1. 高校生との接触機会	21
2. オープンキャンパス	22
3. 高大連携に向けての取り組み	22
4. 広告媒体の検討	22
5. 自己点検・評価	22
[4] 総務部	22
1. 補助金の確保	22
2. 予算の適正管理	22
3. 施設設備の年次計画	22
4. 公的研究費の管理	23
5. 教育懇談会の開催	23



6. 後援会新旧役員会の開催	23
7. 自己点検・評価	23
[5] 図書館	23
1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供	23
2. 図書館各種企画事業	24
3. 自己評価・評価	24
[6] キャリアサポートセンター	24
1. 就職・進学に関する指導や相談	24
2. 就職活動の支援と状況把握	25
3. 就職支援に関する講座等の実施	25
4. キャリア教育の推進/インターンシップ支援	25
5. 就職先の開拓・拡充/教職員による研修等の参加/センターとしての事業開拓	26
6. 自己点検・評価	26
[7] 基盤教育研究センター	26
1. 初年次教育として関連授業や講座を実施	27
2. キャリア教育と関わる授業を実施	27
3. リメディアル教育として学習活動を計画・実施	27
4. 教育活動を通じた具体的かつ意味のある教育方法の調査と提案	27
5. 自己点検・評価	27
[8] 保健センター	28
1. 感染症対応	28
2. 健康診断	28
3. 外傷・疾病・健康相談への対応	28
4. 保護者面談	29
5. 啓発活動	29
6. 進路支援	29
7. 自己点検・評価	29
[9] こども研究センター	30
1. 「こども広場」	30
2. 「親子で遊ぼう」土曜日（月1回）	31
3. 「こども応援ひろば」	31
4. 自己点検・評価	32
[10] 異文化交流室	34
1. チューター制度	34
2. 留学生、学生、卒業留学生、卒業生、チューター、教員参加の交流会	34
3. 地域の学生との交流促進・各種語学関連のスピーチコンテストの支援として	35
4. 第6回国際お料理大会	35
5. 国際交流センター共催クリスマスパーティ	36
6. 自己点検・評価	36
[11] 産官学地域連携室	36
1. 東大阪市連携6大学公開講座	36
2. マリンバとピアノと歌のSDGs名曲コンサート	37
3. 自己点検・評価	37



[12] 公開講座	37
1. 令和6年度公開講座	37
2. 自己点検・評価	39
[13] FD・SD研修	39
1. 第1回FD・SD研修会	39
2. 第2回FD・SD研修会	40
3. 第3回FD・SD研修会	40
4. 自己点検・評価	40
[14] 国際介護福祉学研究センター	40
1. 論文誌の発行	40
2. 介護福祉学ランチョンセミナー実施	41
3. 介護福祉学科との公開講座共同開催	41
4. 村上学園介護相談室の設置	41
5. 自己点検・評価	41
[15] 教養教育委員会	41
1. 定期語学試験	41
2. スピーチコンテスト（弁論大会）	41
3. 自己点検・評価	42
[16] IR委員会	42
1. 自己点検・評価	42
Ⅲ. 学園財務の概要	
1. 事業活動収支計算書（令和4年度から令和6年度）	43
2. 貸借対照表（令和4年度から令和6年度）	44
3. 財務比率（令和4年度から令和6年度）	44



建学の精神と本学の使命

開学の祖、村上平一郎先生が学園の設立を志されたのは、「健康にして聡明、情操豊かにして強い生活力を持った人材を育成する」ためであり、この目標を生かすべく、「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げられた。この建学の精神は、時代の変化を超えて不偏性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間を作る教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、大学学則第1条（目的）、第3条の2（各学科の人材養成目的）、短期大学部学則第1条（目的）、第5条の2（各学科の人材養成目的）に従い、教養科目並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

学園訓

萬物感謝

「私は、自分以外のすべてによって生かされている。ありがたいことだと感じる。」

私たちが生きていくには、大きく考えれば宇宙全体の力で生きていると言えます。私たちは、空気や太陽、自然界の色々な恵みによって生かされています。言い換えると、宇宙全体のおかげで、自分が今ここに生きているのです。私たちは、萬物のおかげによって、生きているのです。したがって、物を大切にし、すべての命を大切にし、感謝する心を持つことが大切です。

質実勤労

「かざり気がなく、真面目に、自分の仕事に精を出し、努力すること。」

科学技術の進歩、高度情報化社会の時代に、将来、社会に役立つ立派な人になるためには、陰日なたなく努力し、自分に与えられたことに対して責任を果たすことです。真面目に、日々の努力を積み重ねる必要があります。そのためには、精神力と身体を鍛え、持っている力を十分発揮できるように努力することが必要です。

自他敬愛

「かけがえのない自分を大切にすることはもちろんのこと、他人も大切にすること。」

今、地球上には数多くの人間が生存していますが、自分というものは、世界でたった一人のかけがえのない存在です。それと同様、他人もまたかけがえのない存在です。自分というものは、他人がいなくては生きていけないし、他人によって生かされていることを自覚し、相手の立場をお互いに理解しあうことが大切です。（村上靖平理事長 入学式告辞より）

本学の教育目的

本学は、教育基本法並びに学校教育法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間を作る教育をめざすとともに、大学においては、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とし、短期大学部においては一般教養とともに健康栄養並びに幼児教育に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成することを目的とする。

本学の教育目標

大学…広い教養と豊かな情操を備え、子どもに関する専門的知識、技能を身につけ、子どもの視点に立って子どもの育ちを総合的に援助できる人材を育てる。



短期大学部…「学問を通して人間を作る教育」の実践を図り、知識や技術に偏重することなく、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。

3つのポリシー

東大阪大学アドミッションポリシー（入学者受入方針）

こども学部こども学科

子どもをめぐる諸問題に意欲的に取り組める人、知的関心と豊かな情緒によるコミュニケーション能力を持つ人、事象や問題点を正確にとらえて意味づける力を持ち、筋道だった考察と表現ができる人を望みます。

こども学部国際教養こども学科

日本だけでなく、国際的な視野を持ち世界各国および地域の子どもをめぐる諸問題に意欲的に取り組める人、知的関心と豊かな情緒によるコミュニケーション能力を持つ人、事象や問題点を正確にとらえて意味づける力を持ち、筋道だった考察と表現ができる人を望みます。

東大阪大学カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

東大阪大学では、その教育理念に基づき子どもをめぐる諸問題に取り組むことができ、次代を担う子どもの健全育成に貢献できる人材を養成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成しています。

こども学部こども学科

1. 広範で多様な基礎知識と子どもを学ぶために欠かせない豊かな人間性を養うため、人文・社会・自然・総合・外国語・保体科目に区分した全学に共通する教養科目を設置する。
2. こども学を修めるにあたり必要な専門知識及び技能を習得するため、必修・基礎選択・選択・3、4年次専修科目に区分した専門科目を設置する。
3. こども学を修めるとともに、教育者としての免許状及び保育士証を取得するため、自由選択科目を設置する。

こども学部国際教養こども学科

1. 広範で多様な基礎知識と子どもを学ぶために欠かせない豊かな人間性を養うため、人文・社会・自然・総合・外国語・保体科目に区分した全学に共通する教養科目を設置する。
2. こども学の専門知識に基づいて国際社会の価値観《国際文化》を学びながら世界に通用するビジネス専門知識《経営・経済》と卓越したコミュニケーション能力《語学力》を養い、必要な専門知識を習得するため、必修・基礎選択・3、4年次専修科目に区分した専門科目を設置する。

東大阪大学ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

東大阪大学で以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

こども学部こども学科

1. 人類はもとより生きとし生けるものに対し、優しい気持ちで接する心を持ち、生きているものを大切にする心を持ち、次代を担う子どもの健全育成に貢献できる人となる。



2. 社会人として必要な教養と子どもに関する専門知識及び技能を習得し、広い視野で考える力、主体的に課題を見つける力を身に付け、子どもの立場に立って考え、発言し、社会に貢献できる人となる。
3. 人や地域から恩恵をうけていることを喜び、感謝するとともに、相手の立場に立って考えることを教え、人の痛みがわかる人となる。

こども学部国際教養こども学科

1. こども学の専門知識をグローバルな視野で追究すると同時に、世界に通用するビジネス専門知識を学び、社会及び市場変化を的確に把握し、かつ課題解決に施策を提案できる複合的人材となる。
2. 国際連携をモットーに、国境を越える多面的な交流により、国際社会の多様な価値観を学びながら、世界の子ども、世界の中の日本に関する諸問題と諸知識を探究・習得し、世界の社会、文化、歴史、経済、環境などに強い関心を持ち、かつ異文化が理解できる世界観を有する人となる。
3. 幅広い教養知識の習得と徹底した語学指導により、企業及び国際社会を舞台に高度な実践的語学力で活躍できる国際性豊かな人となる。

東大阪大学短期大学部アドミッションポリシー（入学者受入方針）

実践食物学科

食物や栄養に関心を持ち、専門知識と技能を得て、将来の生活に役立てたいと考えている人、「食」をめぐる社会環境について見識を深め、食物栄養の分野で「人」の「健康」にかかわって社会で活躍したいという意識を持った人を望みます。

実践保育学科

“子どもが好き”であることは必須条件であるが、それだけではなく、教育・保育の場は専門的な知識と技術、立派な人格を備えた「人物」が求められる社会であることを認識し、その目標達成のために積極的に学び、成長しようとする人を望みます。

介護福祉学科

介護に関心を持ち、介護を必要とする人の立場にたって理解できる素養を身につけている人、介護に関する知識を深め、介護分野において社会的にも貢献しようという意欲のある人を望みます。

東大阪大学短期大学部カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

東大阪大学短期大学部では、実践食物並びに幼児教育及び幼児保育、介護福祉に関する実地的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成しています。

実践食物学科

1. 多様な基礎的知識と、基本的な学習能力の獲得のため全学に共通する一般教養科目を設置する。
2. 食の大切さを学び、健康で豊かな食生活が送れるように積極的に努力し、実践できる能力を養い、社会的に貢献できる人材を養成するため専門科目を設置する。
3. 食に関する科目を修めるとともに、教育者としての免許状を取得するため、教職科目を設置する。

実践保育学科

1. 多様な基礎的知識と、基本的な学習能力の獲得のため全学に共通する一般教養科目を設置する。



2. 幼児期における教育及び保育に関わる者に求められる深い知識を習得し、人間的に豊かな人材を養成するため専門科目を設置する。
3. 幼児期における教育及び保育に関する科目を修めるとともに、教育者としての免許状及び保育士としての保育士証を取得するため、教職科目を設置する。

介護福祉学科

1. 職業人としてふさわしい教養と思考力を養うために、一般教養科目を設置する。
2. 介護人材として相応しい教養、制度を修得する専門「人間と社会」領域科目を設置する。
3. 介護の基本・全体像、介護技術等を修得する専門「介護」領域科目を設置する。
4. 介護に必要な周辺知識を修得する専門「こころとからだのしくみ」領域の科目を設置する。
5. 医療的ケアに必要な知識・技術を修得する専門「医療的ケア」領域の科目を設置する。
6. 介護福祉士養成施設としての科目を構成する。
7. 学生負担及び学修順序を考慮した配当年次を構成する。

東大阪大学短期大学部ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

東大阪大学短期大学部で以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

実践食物学科

1. すべてのことに感謝の気持ちを持ちながら、健康を維持するために食生活全般に興味・関心を持つことのできる人となる。
2. 常に向上心を持って努力し、多様な分野で広い視野を持って活躍できる人となる
3. 自分を大切にし健康維持に努めるとともに、他の人にも心を配って社会に寄与・貢献できる人となる。

実践保育学科

1. 人間が生きていくことの意味を伝え、自然に対する畏敬の念を抱き、それを守り、科学や文化、芸術に対する感受性を伸ばすことのできる人となる。
2. 勉強や仕事をするとは、即ち文化の継承だとの認識に立ち、物を大切にし、健康の大切さを認識し、精神的な豊かさの重要性を伝えられる人となる。
3. 世界には多様な価値観があることを教え、差別やいじめを許さない心を育て、自分の大切さ、ひいては他人を理解することの大切さを伝えられる人となる。

介護福祉学科

1. 一般教養だけでなく、人間の尊厳・倫理観を兼ね備え介護人材としての教養を備えていること。
2. 社会の在り方から介護保険を中心とした各種制度を理解していること。
3. 介護の考え方、介護のコミュニケーション、介護計画の立案等、介護の基本を確実に修得していること。



I. 法人の概要

1. 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更



30年 4月 1日 東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
 令和 3年 4月 1日 東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に
 名称変更

2. 法人事務局・学校所在地

法人事務局 〒577-8567 大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
 大学・短期大学部 〒577-8567 大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
 東大阪大学敬愛高等学校 〒577-8567 大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
 東大阪大学柏原高等学校 〒582-0001 大阪府柏原市本郷 5 丁目 993
 東大阪大学附属幼稚園 〒577-0044 大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1

3. 設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数（令和6年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒・園児数
東大阪大学	こども学部	284
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	81
	実践保育学科	61
	介護福祉学科	136
東大阪大学敬愛高等学校	普通科（全日制課程）	727
東大阪大学柏原高等学校	普通科（全日制課程）	499
東大阪大学附属幼稚園		268
合 計		2,056

4. 役員・教職員等の概要（令和6年5月1日現在）

- (1) 役員 理事 7人 監事 2人（任期：令和7年7月3日）
 (2) 評議員 15人（任期：令和7年7月3日）
 (3) 教職員 350人

	教 員		事務職員		合 計
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	
法人部門	0	0	13	3	16
東大阪大学	21	24	14	13	72
東大阪大学短期大学部	30	32	15	2	79
東大阪大学敬愛高等学校	46	16	5	7	74
東大阪大学柏原高等学校	48	8	11	10	77
東大阪大学附属幼稚園	20	4	5	3	32
合 計	165	83	65	37	350



Ⅱ. 事業の概要

東大阪大学・東大阪大学短期大学部

建学の精神、本学の使命である「学問を通し人間をつくる教育」の達成のため、学科ごとに「卒業認定に関する方針」「教育課程編成及び実施に関する方針」「入学者の受け入れに関する方針」の3ポリシーを明確に定め教育実践に努めてきた。

3つのポリシーをもとに「教学改革プロジェクト」「入試広報改革プロジェクト」で提案内容を検討し、中期計画検討委員会（評議会）に提案し、各学科や部署で取り組むべき内容を具体化し、即実行に移せるものと長期的に取り組むものを整理し働めていった。

ディプロマポリシーに基づき、学生一人一人の単位修得状況を学科会議で確認し、卒業後に社会人として活躍できる人材育成に努め、就職率は100%あるいはそれに近い実績を上げることができた。

カリキュラムポリシーに基づき、より実践力をつけるため、学科会議、教務委員会が中心となりカリキュラムの改革、検討を行った。

アドミッションポリシーを基に、多様な受験生が受験できる入試方法を検討した。オープンキャンパスの参加者が継続して参加することにより受験に繋ぐ実績があり、継続した情報発信に努めた。各学科、各部署のブログやインスタグラムの発信により学科の特色をアピールし、受験生への効果を得た。

大学こども学部は、編入生の定員が20人である。例年の入学者数から令和8年度募集より編入定員を6人に削減し、大学収容定員削減の届出を行う作業を進めている。

1. 中期計画、経営改善計画実現への取り組み

① 入学者確保

入学定員充足を目指し募集活動を進めてきた。

今年度より短期大学部実践食物学科、実践保育学科の定員を削減し募集活動を行った。しかし、実践保育学科は苦戦し学生数が激減し、令和8年度入学生より募集停止する決断をした。実践食物学科の入学予定者数は目標に近づいている。介護福祉学科は邦人受験生が例年より増し、その上留学生の受験生が大幅に増加した。例年合格者の中で辞退者も多いが、今年度は辞退者が予測より少なく、定員数を超えた。

大学こども学部は昨年度入学者数よりやや増加し目標値に近づいたが、収容定員充足までには至っていない。編入生が5人で例年より増加した。

全国的に、公立高校数が減り18歳の高校生人数は減少している。一方、単位制高校、通信制高校が増加し在籍者数が増えている。本年度、社会人受験もあり、留学生や社会人も含めた募集活動に力を入れ、やや成果が見えた。留学生募集については大阪府下にある日本語学校を中心に留学学生募集の強化を図った。

予算減少のなか、情報発信手段を手作りで行い発信し続け効果を得ている。

② 各学科のカリキュラム改革、授業内容の見直し



令和7年度から大学は、1・2年次の1限目に授業を入れず、その時間は、学習や生活についての相談、助言ができる時間帯とし、大学生活に徐々に慣れる準備期間を設けることにし、時間割の調整を行った。このことは、退学者防止策にもつながると考えている。

全学科でキャリア教育に力を入れたカリキュラム作りを行った。実践的な学びができる授業内容や授業方法を学科会議で検討し実践してきた。各学科の内容を学科の枠を超え全学科に発信し、学科間の情報を共有した。それが募集活動に効果があり、教員の指導力向上にもつながった。

③ 就職率100%を目指す取り組み

キャリアサポートセンターを中心に全学科が「就職率100%」を目指し取り組むことができた。教職員が一丸となって取り組んだ成果である。インターンシップやボランティア教育の充実を図るとともに、学生の受け入れ企業を増やすため企業との連携を図り、東大阪市を中心に就職先開拓に努めた。

④ 経営改善における課題

- 経営改善計画で奨学金比率を下げるために奨学金の見直しに着手するため検討を重ねているが、非常に難しい。未着手の奨学金について学生募集との関係もあり慎重に検討を重ねる必要がある。
- 退学者防止に努めるため、アドバイザーやゼミ担当者が個別理由を聴き取り指導している。特に「生活困窮」が理由での「進路変更(就職)」が多く、やむなく退学するケースとなる。個別支援を行い退学に至らない学生も増えているが、学生だけの問題ではなく家庭事情との関係で指導、支援が難しい。

2. 教育の質保証の取り組み

学園「中期計画策定のための委員会・PT」を中心に、若手教職員の意見が反映できる体制を作り組織的な運営ができるようにした。ZOOM会議、メールの発信等での意見交換が積極的になり、日常的に改革改善のできる体制ができ、各学科や部署の動きを共有できている。本学の使命である「学問を通し人間をつくる教育」を達成するため、実践的な学びを意識し、実践力を高めるカリキュラムの見直し、キャリア関係科目内容の充実等、大学全体で取り組むことができた。

予算削減の中、広報発信のツールを模索し教員のアイデアを生かし発信している。ホームページや学科、部署のブログでの発信は、常に更新し新しい情報を発信するようになった。



【東大阪大学】

〔1〕 こども学部こども学科

1. 在籍者数増加（募集力強化と退学者減少）

- ・ オープンキャンパスの学科イベントのやり方を見直したが、1人の教員の体験授業の印象が強かったようである。参加高校生と在学生の話す機会は効果があった。オープンキャンパスに協力した学生の育成が課題である。
- ・ インスタグラムフォロワー数 1134 となり、1000 は達成した。しかし、広報学生を組織化し、担当教員を中心にインスタグラムの発信はほぼ毎日行われており、楽しい内容を提供でき効果があった。
- ・ 募集重点校として、近隣重点校を重視した訪問やチラシ配布を行った。
- ・ 入学時の学習意欲を継続して維持できることを目的としたコース制の設置、小学校教育実習に対応できるカリキュラム変更をした。また、1・2年次に1限目を空きコマとする me time を導入し、学生への相談や助言、オンライン学習の時間確保、通信制高校や遠方の学生へのニーズに応える体制を整備した。

2. キャリア教育の充実

- ・ 2024 年度より開設した「地域連携とフィールドワーク」では、学生たちが様々な地域活動を行い、学期末に発表会を行った。地域に東大阪大学をアピールする機会となり、今後とも充実化を図る。
- ・ 教員採用試験対策としてキャリアサポートセンターによる支援を経て、教員採用試験に 2 名合格した。警察官に 1 名合格した。
- ・ 3 年次後期の幼稚園実習を今年度から、1 年次 2 週間、3 年次 2 週間とするカリキュラムへの変更をした。1 年次の実習は不安もあったが、幼稚園教諭の基礎的資質を早くから理解をする経験となったと評価する。より綿密な幼稚園との連携、質の高い保育の体験ということについては課題がある。
- ・ 就職については概ね 100% で、キャリア形成の授業などを通じた取り組みが実っている。また、学生たちが見学やインターンシップを通じて就職を決定しており、より自分に合った就職先に繋がっている。

3. 教育者・保育者としての ICT 活用能力育成

- ・ 教育・保育現場での ICT 活用スキル育成について、小学校教員志望学生の授業では、タブレットや PC を活用した授業運営について実践的な指導ができ、GIGA スクール構想下の小学校で即戦力となる教員の育成が継続して進められている。
- ・ 模擬授業を重視し、ディプロマポリシーに掲げている「広い視野で考える力、主体的に課題を見つける力を身に付け、子どもの立場に立って考え、発言」することを実践した。

4. 地域連携活動の推進

- ・ 「こども応援ひろば」において、SDGs をテーマにしたこどもの遊び場を提供し、「こど



も学 for SDGs」を具現化し発信した。前年度から継続して実施することによって、学生や参加者の意識づけを進めた。SDGs のテーマはディプロマポリシーに掲げている「人類はもとより生きとし生けるものに対し、優しい気持ちで接する心」に繋がっている。

- ・ 「こども応援ひろば」では新たに子育て支援企業によるブースを設置し、7 社がブースを出展した。出展企業とはその後も大学祭や教員との共同研究で繋がりを持ち続けている。地域の企業の活動に学生が関わることにより、ディプロマポリシーに掲げている「人や地域から恩恵をうけていることを喜び、感謝するとともに、相手の立場に立って考える」を実践した。

5. 自己点検・評価

最大の問題は、OC 参加が少なく、予約をしていても当日欠席されることが多い。入学 36 名中、敬愛高校 16 名、柏原 2 名（3/8 時点）となっており、指定校や特別指定校からの入学が減少している。Instagram などの広報に力を入れているものの大きな効果はみられない。me time、少人数の温かい大学、キャリアに強い大学などの強みをさらに伝えていく必要がある。

地域連携については、繋がりのある企業を増やしたことに大きな意義があり、今後も拡大継続することで、地元への広報活動と学生の就職に結びつけたい。

〔2〕 こども学部国際教養こども学科

1. 留学生も含む学生募集の強化。邦人学生と留学生のバランスを意識した募集活動を意識し、国際性豊かな環境づくりに取り組む。

本年度の学生募集活動は、学科定員 25 名のところ 29 名の新生を迎えることができた。その内、留学生は、16 名であった。本学科の教育の特色である多文化共生と国際性豊かな学習環境に相応しい学生構成であったと考える。

学生募集活動で特に力を入れたことは、高校生、留学生ともに共通して親しんでいる SNS であるフェイスブックの担当教員が積極的に学科における授業や学内外活動を投稿するようにした。さらに、“いいね”を押してくれた生徒には、さまざまな情報提供や友達紹介の依頼等を行った。この活動は、特に留学生の獲得に効果を発揮した。

2. 野球部学生が多い中、クラブ活動と学業の両立を図れるように支援する。

クラブ活動と学業の両立を支援するために、入学時より個別に授業とクラブ活動の時間配分や学習計画についての相談を繰り返し行った。履修指導においても年次ごとに履修すべき科目を体系的に説明し、4 年間の学びを俯瞰できるよう工夫をして指導に努めた。結果、海外の大学とのオンライン交流活動や外国人高校生の大学見学等において多くの野球部所属学生が、それぞれの時間を工夫して積極的に参加した。

3. 徹底した多言語による語学教育を行い、国内外で活躍できる人材育成を行う。留学生が日本で活躍できる国際教養とスキルを身に付けるよう支援する。

学科のグローバル化対応への語学教育強化の一環として、毎月 1 年生から 3 年生全員に語学定期試験を実施した。内容は、日本人学生には、TOEIC 模擬テスト、外国人および渡日学



生は、BJT（ビジネス日本語試験）模擬テストを行っている。各模擬テストの結果（点数）に順位をつけ学内掲示板に貼り出し学生の競争心を高め、語学力向上を図った。

本学異文化交流室が主催する第8回東大阪大学弁論大会に、本学科の取り組みとして語学担当教員の指導の下、本年度は本学学生8名が参加した。その他、近隣の高校生10名が参加し盛況に執り行われた。

国際教養こども学科の成果として、引き続き次年度にも継続して参加を呼び掛けたい。

本学科2年生全員が参加する海外研修「国際教養こども学研修」は、本学科の必修科目である。今年度の海外研修は、フィリピンセブシティにあるキュリアス ELS に1週間滞在した。現地滞在中は、オールイングリッシュのルールの下、本学学生は、大学が用意した様々なアクティビティを体験した。この研修では、英語力の向上はもとより、学生同士のチームワーク特に日本人学生と留学生間の垣根を取り払うことができ有意義な研修となった。

4. 自己点検・評価

- (1) 本学科のアカデミックな国際文化学習の機会創出のため、学外講師による海外体験講演会を複数回開催した。またインドネシアの高校生23人を本学に迎え、本学科学生主導で国際交流会を実施した。これらの活動により、多くの学生の自主性と国際性を育めることができた。今後、学生の興味ある課題を抽出し講演者を募り、講演会を開催していくことや海外の学生との交流の場をより多く提供していきたい。
- (2) 学科学生の基礎学力、教養知識、語学力の強化のため、教育関連企業の協力の下、SPI3の模擬試験を行った。事前の予習と日々の学習の重要性を理解し、就職活動に役立てたい。語学力に関しては、例年、実施している月次の語学定期試験を更に充実させていきたい。これらの活動により、近年、公務員や公共団体職員の採用試験に多数の合格者を出している。さらに就職に強い学科としてアピールしていきたい。

【東大阪大学短期大学部】

〔1〕実践食物学科

1. 栄養士コースおよび製菓衛生師コースの資格取得支援の充実

栄養士免許、製菓衛生師試験受験資格は全員取得できた。食品科学技術認定証は両コース合わせて31名が取得した。テーブルコーディネーター初級は両コース合わせて12名が受講した。栄養士実力認定試験は6名受験し4名がA判定者となった。

2. 入学前教育による学生の意識改革

「学びの泉」（学内 E-Learning）を活用した入学前教育を実施している。卒業研究等を動画で視聴することで、新たな学修方式を視覚的に認識するとともに、入学前に学生の意識を改革することを目指した。同時に、ICT活用教育 WEB 式リメディアル教育ツール「ひがドリ」（E-Learning）の「基礎編」を入学前教育の必須課題とし、基礎学力向上を図っている。

3. 初年次教育、リメディアル教育と ICT 活用教育



初年次教育としてリメディアル教育と「ひがドリ」ならびに Google による大学向け無料 Web サービス「Google Classroom」を活用して、専門科目の理解の補助となる科目（数学等）や就職活動に結びつく科目等（国語、一般常識）を中心に継続的に取り組むことで、基礎学力向上を継続している。

4. 同法人内の両高等学校との高大連携強化

東大阪大学敬愛高等学校、東大阪大学柏原高等学校で、複数の授業を本学科の教員が担当することにより、栄養士あるいは製菓衛生師を目指す動機づけを行い、内部進学を促した。その結果、両校より 15 名が受験し合格した。

5. 地域との連携強化(産学連携)による実践教育

11 月 9 日(土)「こーばへ行こう! 2024」のマルシェのイベントとして、株式会社協立化工業の場所を借りて、東大阪市の名産でもある小松菜入りのキーマカレー（栄養士コース）と焼きドーナツ（製菓コース）を製作して販売をした。また、同月、河内長野市の道の駅「くろまろの郷」で開催された「2024 収穫祭」にも参加し、バターナッツカボチャを使用したかぼちゃパイと具沢山のかぼちゃスープを販売した。発案、試作から製作、販売を実践し、卒業研究ではその取り組んだ成果を発表した。「ワクワク EXPO with 第 19 回食育推進全国大会」、東大阪市内保健所主催の「食育フェスタ」にも参加した。

6. 各種コンテストへのチャレンジ

今年度も学科の特性を活かした食にまつわるコンテストに積極的に応募した。「おおさか EXPO ヘルシーメニュー」コンテストに栄養士コースの 2 年生 6 チームが応募し、内容が「健活 10」X (旧 Twitter) にて紹介された。第 23 回大会インスタントラーメンオリジナル料理コンテストに両コースの 1 年生 10 チームが応募した。JA 全農×JA 女性組織 防災食レシピコンテストに栄養士コースの 2 年生 1 チームが応募した。第 6 回東大阪大学「国際交流 料理大会・世界のカレー」で製菓コースの 1 年生チームが優勝した。

7. 自己点検・評価

本年度はコロナ禍以前の取組みが可能となってきた。教育面では学外実習をこなすことができて、学生の実践力向上に一定の成果（「食」に関わる仕事を選ぶという意識啓発に結びついたこと）があった。活動面では、外部のイベントや道の駅での商品作りの体験ができた。その中で SDGs の取組みにチャレンジすることができたことは、食生活全般への興味・関心持ち、社会に寄与・貢献できる人材の育成に繋がった。更に、食を土台にした学びの成果として、教育者(家庭科教員)の道を選ぶ学生を育成できたことも、社会人としての活躍の場を広げていくことになった。これらのことは 3 ポリシーを踏まえた今後の活動の新たな指針となる。

〔2〕実践保育学科

1. 学科の目標

「幼児教育及び乳幼児教育のより良い指導者を育てる」ことを学科目標に掲げ、入学者全員が卒業までに幼児教育ならびに乳幼児教育の在り方を理解し、責任感のある有能な保育者



として巣立つことを意識した。

2. 入学前教育の充実

入学前教育として、「ひがドリ」への取り組みを実施してスムーズに大学教育へ進める様に取り組んだ。また、オンラインでの入学前の zoom による懇談も実施した。

3. 複数担任制

教員が一丸となって連携し、学生一人ひとりに個別指導と支援を行い、一人ひとりが自分の目標に向かい努力するように指導を行った。アドバイザー教員やコーディネーター教員が学生と面談をし、必要な場合は保護者とも懇談を行い、時間をかけてきめ細やかな指導を行った。

4. 資格取得

入学生全員が希望する免許、資格を取得することに全力でサポートした。

入学当初は学生全員が免許資格取得の希望があり、授業に対する態度や意欲も見受けられたが、時間とともに方向性に迷いを抱く学生も散見された。学生の想いも尊重しながら迷いに寄り添い、希望に沿った形を模索しながら指導を行った。

5. 地域連携活動の推進

ボランティア活動として、地域の保育所、幼稚園、こども応援広場等々の行事に参加した。

幼稚園においては、預かり保育利用の園児に関わり、実際に子どもたちと触れ合う機会を多く持ち、学生の学びへの興味に深くつながった。

クリスマスの時期にペットボトルで制作したイルミネーションを点灯し、地域の方々にも楽しんで頂いた。

6. キャリア教育の充実

学内における就職説明会に、1年生も参加した。就職の選択肢が多くあることを知り、学生個人の将来像について真剣に考える機会になった。また、複数の施設の方から直接話を聞くことにより、実習に対する意欲や、実習先の選択に興味を持つ機会にもなった。

なお、就職希望者にほぼ内定通知を頂いている。

7. 国際交流・留学生の受け入れ

一名の留学生は保育士資格を取得して卒業を迎え、保育園での就職が決定した。

8. 卒業研究発表の充実

今年度は、楽器演奏チーム・ダンスチーム・PCチームの3グループ運営で発表会に向けた計画と実践を行い、集大成として東大阪布施リージョンセンター（夢広場）において、「動物の謝肉祭」の研究発表を行った。保護者をはじめ、地域の小学生等、多くの入場客を迎えての発表となり、学生たちも、達成感を大いに感じられる発表会となった。

9. 在籍者数増加（募集と退学者減少）

大阪府だけでなく奈良県も重点的に訪問したが効果は得られなかった。退学者防止等については、学生との面談、保護者との連絡等々、教員複数名で対応してきた。しかし、心身の不調、経済的困窮に伴うこともあり、退学を余儀なくされたケースが多い。

10. 3年制学生への支援

今年度初めて3年制コースを導入し、入学者は7名であった。前期の履修においては午前



の授業を中心とし、後期の履修は午後の授業を中心とした履修指導を行った。1年目はすべて2年制コースの1年生と同じ授業を履修し、実習も（「保育実習Ⅰ」）2月に実施した。3年制コースの学生募集時に謳った「ゆとりをもって勉強」「自分のペースで資格取得」の文言通り、学生達は授業準備に時間をかけることができ、有意義な学生生活を送ることができた。

11. 自己点検・評価

長期欠席者を除いては全員の卒業が認定された。これは教員が学生一人一人と向き合い、適切な指導を行った成果であると考えている。

学生募集停止となったことは残念ではあるが、最後となる入学者も希望する職に就けるようにこれまでと同様きめ細やかな学生指導とサポートを行っていきたい。

〔3〕介護福祉学科

1. 教育内容の充実と改善

本学科は2023年度にカリキュラム改定を実施した。改定により、2年間を明確に4期に分けた体系的な教育の実施が可能となった。2024年度は、新カリキュラムのもと教育内容の充実と改善を目指した。

（1）教育内容の充実：国家試験を視野に入れた日々の教育

介護福祉士の資格取得の移行期終了を視野に入れ、日々の授業において国家試験取得につながる内容を体系的に教授する。また、入学当初から、国家資格取得を通したキャリアパスを学生に示すことにより、資格取得に向けた学科の雰囲気醸成するようにした。

（2）教育内容の改善：本学科の学生に合った授業の展開

教育内容は、アクティブラーニングの本格的導入を目指す。生成AIの発展と普及により、従来の座学と筆記テストや講義とレポートなどのような受け身の学習だけでは、今後求められる学生の問題解決能力習得にはつながらない。そのため、専門教育科目では、専門知識と技術の習得に留まらない、学生の主体的な学習を促す授業を展開する。ICTを利用したマルチメディアによる教育もさらに展開していくようにした。

同時に、教員のスキルアップのための学科内の総合研修体制を充実される。学科内の相互研修体制は、併設の国際介護福祉学研究センターの活動とも関連付けて実施していた。

2. 学生募集のさらなる強化

高齢化を背景に、介護従事者の必要性は今後増加することはあっても減少することはない。待遇面も年々改善され、製造業や金融業並みの初任給が見込まれるまでになってきている。今年度も、このような、介護福祉士および介護業界の将来性をさらにアピールした学生募集を展開した。

一方、介護従事者に対する社会的なイメージなどは、従来からのマイナスイメージの影響を受けている。介護福祉士を目指す高校生が増えない原因の1つである。

このような状況を変えるための教員による募集活動をさらに強化し、高校訪問及び進学説



明会の参加時期を4月開始に前倒しし、早い段階から積極的な学生募集活動を展開した。同時に、オープンキャンパスにおける本学科の魅力の発信をさらに強化していった。

3. 学科発信の企画の充実

(1) 地域連携のさらなる強化

社会貢献も大学に求められる使命の1つである。社会貢献の中でも、地域とのつながりは、これからの大学に求められる大きな課題である。2023年度は、学科の教育の一環として、学科の学生と教員が大学周辺の清掃活動を実施した。2024年度は、社会福祉協議会や近隣の校区福祉委員会と連携した貢献活動をさらに進めていった。

(2) 学外向け講座の実施：国家試験対策授業とケアマネジャー資格試験対策講座

2023年度から、学外の介護福祉施設職員を対象とした国家試験対策講座とケアマネジャー資格試験対策講座を企画し、国家試験対策講座を実施することができた。2024年度も、本学科教員の専門性を生かし、学外向け国家試験対策講座とケアマネジャー資格試験対策講座を実施し、本学科の社会的プレゼンス向上に努めた。

(3) 学内関係者を対象とした介護相談窓口の設置

2023年度から、学内関係者を対象とした介護相談窓口を開設した。高齢化に伴い、身近な家族に介護が必要となることは珍しくない。本学科教員は、介護現場での経験も豊富であり、介護に関する悩み事にも専門的に対応することが可能である。本学科教員の専門性を生かし、本学園教職員にとって気軽に相談できる環境を整えた。

4. 自己点検・評価

日々の授業において「今日の内容を理解すると国試の〇〇が解けるようになる」と学生に伝え、授業の終了時に内容確認問題を実施するなど、各教員が資格取得に向けた雰囲気醸成に努めた。

2024年度は87名の新入生を迎え入れた。学生数増加に伴い、アクティブラーニングを取り入れるなど、各教員が授業方法を工夫した。

前年度、日本人学生の入学は2名にとどまったが、本年度は7名合格、7名入学手続きに至った。介護を専攻する日本人が激減する中、微増ではあるが、本学に目を向けてくれる高校生が増えつつあることを確認した。

前年度に続き、外部介護施設に出張し国家試験対策講座を実施した。本学教員の専門知識を地域社会に還元する機会となった。

【大学・短期大学部共通】

〔1〕 教学支援部

1. 各学科カリキュラム変更への対応

令和6年度より、実践保育学科において3年制が開始され、こども学科、国際教養こども学科、介護福祉学科においても一部のカリキュラムが変更となったため、各学科の教員と情



報を共有しカリキュラム内容を綿密に把握して、適切な学生への支援を実施した。

2. 情報教育への対応

土曜日にオンラインでの授業が実施される機会が増えたため、情報教育推進委員会と協力し、ICTを活用した授業に対応できるよう、教職員および学生へのハード・ソフト面における支援を実施した。

3. 第三者評価への対応

令和6年度の短期大学部の第三者評価のための自己点検評価報告書資料の作成及び実地調査への準備・対応を適切に実施した。

4. 自己点検・評価

年度末の教員の退職に伴い時間割の変更を余儀なくされたが、部内及び教員間で介護福祉学科及び国際教養こども学科のカリキュラムの変更内容を把握すること、各学科のカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに沿った授業の実施への支援業務を行うことができた。

[2] 学生支援部

1. 学生生活の安定と退学者防止

2025年2月1日時点では、前年度比で退学者数は減少していた。昨年度と、今年度ここまでの退学者の退学理由については、学科ごとに実情が異なることがわかってきている。そのため、まず学科ごとに学生支援部担当教員が中心となり、退学に関する情報収集と分析を進め、それに応じた対応策を実施した。また、全学科でアセスメントシートを利用しているが、今後必要に応じてより使用しやすい様式への変更も検討していくこととしている。

2. 学生生活の安心・安全や環境整備について

薬物、闇バイト、風俗、SNSによる誹謗中傷などから学生を守るための啓発として、学生支援部担当教員によるオリエンテーション時の講義に加えて、大阪府警察および布施警察署の担当者による生活面や防犯についての講演を全学科で行った。また今後、このような実態調査などを行うかについて検討をしていく。

また挨拶運動をかねて、喫煙や交通のマナーの向上のため、キャンパス周辺の定期的な見回りを行った。

学生生活を充実させるため、今年度はキャンパス内でドミノピザの販売を行うなどキャンパス内の環境整備をすすめた。今後さらにキッチンカーの導入などの検討を進める。

3. 障がい学生支援

これまであった「障がいのある学生への支援の基本方針」をもとに、大学・短期大学部の障がい学生のための修学支援方策に係る実施マニュアル、修学支援方策、修学支援フロー図等の内容を一部修正、校正を行い、教授会にて報告をした。

4. 学生イベント・翔愛祭（大学祭）

今年度は学生会・学友会の学生を中心に新入生歓迎会や、翔愛祭（大学祭）を企画・開催した。特に翔愛祭では多くの地域の方々や、卒業生などにも来場していただけた。

5. 学生会・学友会の活性化



イベントの企画・運営を通して、早期の学友会、学生会の組織化を行った。次年度以降も翔愛祭等の開催のため、円滑に学生たちの組織化をできるように、今年度中心になってくれた学生から後輩学生への引継ぎなどを早期から実施し支援を行う。

6. クラブ活動について

コロナ禍を脱し、徐々にクラブ活動を再開することができるようになった。表1のようなクラブ活動の状態となっている。

表1

【体育系】			【文科系】			【同好会】		
クラブ名	顧問	所属人数	クラブ名	顧問	所属人数	クラブ名	顧問	所属人数
ダンス	渡邊 ルリ	8	フォークソング部	高岡 忍	2	音楽サークル	丹山 三恵子	6
陸上競技	松永 須美子	19	箏曲部	高岡 忍	6	ドッチボール	二羽 礼	15
バドミントン	渡邊 由之	9	国際交流クラブ	山本 緑	14	キッズスポーツ	松永 須美子	9
空手道	潮谷 光人	1	いちやりばち よーで一沖縄 文化研究	山本 緑 藤井 みゆき	7	アウトドア (休部)	中西 千奈都	0
バスケットボール	高岡 忍	7						
硬式野球部	日比野 功	38						

7. 自己点検・評価

2025年2月1日時点ではあるが退学者がやや減少している。今後も、各学科各学年の実態に応じた退学防止の取り組みについて更なる検討を継続する必要がある。また、学費未納時の対応を変更し、未納で進級する件数を減少させることができている。SNS 詐欺など学生を取り巻く新たな問題は、今年度も発生した。日常的に情報収集を行い、啓発を継続していかなければならない。

〔3〕入試広報部

1. 高校生との接触機会

ガイダンス、オープンキャンパスが高校生と接触する機会となる。3月6日現在、ガイダンス参加者は前年度同日と比べて655人から638人と減少したが、オープンキャンパス参加者数は686人から709人とやや増加傾向である。高校訪問回数は、前年同時期に857回であ



ったものが今年度は1063回であり（前年度比124.2%）、オープンキャンパス参加者や出願者を増やすことにつながったと考えられる。

2. オープンキャンパス

毎回のオープンキャンパスで同じ内容の学科説明をした。体験授業内容が事前に発信されていないため、オープンキャンパス複数回参加者の希望に応えられていない場合が散見された。複数回参加したくなるオープンキャンパスのやり方の検討や学生スタッフの育成が課題となっている。参加者が出願者となる割合も、学科間で差があり、学科の取り組みを共有したい。

3. 高大連携に向けての取り組み

東大阪大学柏原高等学校へは、国際教養こども学科で経済分野を学べることを発信するなど例年以上に力を入れたが、出願者増に結びつけることはできなかった。学園内の両高等学校への高大連携はさらに強化したい。

4. 広報媒体の検討

大学案内の作成には、大学案内担当チームを編成し、各学科の意見も反映させつつ、統一感あるものを仕上げることができた。大学公式サイトについても、コスト、スマートフォン対応、階層構造の分かりやすさなどの観点から新たな業者の選定を行なった。

5. 自己点検・評価

令和3-4年度にかけて、各学科に主導権を預けた募集活動がなされてきたという経緯がある。令和5年度からは、入試広報部が単なる入試事務作業担当部署ではなく、募集戦略を担って各学科を牽引していく体制への転換が進んでいる。

各学科との連携を密にし、各学科各入試区分の目標数値を学科と共有して、PDCAサイクルを機能させていくようにしたい。

[4] 総務部

1. 補助金の確保

取組内容に該当する項目が多くはなく、補助金を確保するためには取組内容を遂行できるよう全学的に取り組める組織作りが必要と実感している。また、取組項目は一つの部署だけではなく、各部署と連携を図りながら実施しなければならない項目もあるため、補助金獲得に向けた取組方法を構築する必要がある。

2. 予算の適正管理

大学・短期大学部の財政状況への理解を深め、適正に執行することの重要性を強く認識する必要がある。予算執行にあたっては、合规性・経済性・効率性の観点から各種書類（起案・出張届・購入伺等）を精査し、金額の多寡にかかわらず厳正に行った。

3. 施設設備の年次計画

経年劣化に起因する施設・設備の更新を計画的に進めている。

令和6年度は、共有部（高天井）照明器具交換（9号館）、消防用設備改修工事（1・2・3・4・9号館）、非常用放送設備更新工事（8号館）を終了した。



令和7年度は、消防用設備改修工事（1・2・3・4・9号館）を継続、雑用水加圧ポンプユニット（9号館）、土間陥没修理工事（3号館廻り）、照明設備LED化（3・4号館）、計画する。

4. 公的研究費の管理

令和6年度の研修会は、前年度と同様に、コンプライアンス教育について「説明動画の視聴」及び「説明資料の確認」により「公的研究費に係るコンプライアンス教育」、「研究倫理教育研修会理解度アンケートについて」及び「公的研究費の使用にあたっての確認（誓約書）」を提出する形式で実施した。

5. 教育懇談会の開催

大学・短大主催の懇談会を設け、学生生活（学業成績・課外活動・就職等）に係る情報交換・相談を実施する。大学・短大情報を保護者に発信し、各種行事への参加を仰ぎ、より一層の連携強化を図った。

6. 後援会新旧役員会の開催

各学年の保護者役員に参加いただき、前年度収支決算書、今年度収支予算書を審議、次年度の新役員候補の互選を行った。任期満了となる保護者役員の方へ感謝状、記念品の贈呈を行った。

7. 自己点検・評価

令和6年度における施設設備の年次計画であった照明器具のLED化（外周）、AV機器改修等（8号館814・815・862・871・9号館921・922講義室）、LED不具合箇所修理（8号館832）、樹木・雑木・枯損木伐採、吸収式冷温水機改修工事（1号館）は収支状況を考慮し、令和8年度以降に実施することで見送ることとした。

令和8年度より東大阪大学短期大学部実践保育学科の入学生の募集停止が決定された。東大阪大学、東大阪大学短期大学部実践食物学科、介護福祉学科においては引き続き、入学者の募集強化・改組等において定員充足に注力し、収入確保に努める必要がある。

[5] 図書館

近年低迷している学生の図書館利用を如何に改善するか、図書館ではスタッフ一同が試行錯誤をしながら努力してきた。だが諸事情により、一階閲覧室が2025年前期は週3日の午後の開館、後期は閉館して授業での使用のみ可となった結果、2024年の入館者数（2024年1月～12月）は、教職員を含め1442人、延べ貸出し冊数は807冊と前年度から減少している。

1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供

（1）より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2024年度も引き続き「辞書・事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「アンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきた。

その結果、2024年度末までの「辞書・事典類」冊数は昨年度より11冊増の2,802冊（2024年12月31日までの登録冊数）となり、「アンデルセン絵本コレクション」は、合計35カ国・地域、25言語数の416冊となっている。



(2) 2024年度(2024年12月31日までの集計)までの蔵書数は以下の通りである(前年度までの数字を括弧内に表示)。

和書	80,594冊(79,939)	洋書	6,897冊(6,729)
雑誌	621誌(621)(増減なし)	AV資料	3,771点(3,768)

厳しい財務状況のなか、雑誌以外いずれも増加している。和・洋書の合計は、現在84,000冊を超えている。

2. 図書館各種企画事業

2024年度も学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記の通り実施した。

(1) 展示コーナーの充実

6年前から、図書館内に学科の特色を示す展示コーナーを設置し、展示内容の充実をはかってきた。展示テーマは「世界の食」であり、アジアからヨーロッパにかけての料理と食材に関する書籍を展示した。また昨年度より引き続き、テーマ「小学校国語教科書からみる近代日本の歩み」として、明治初頭から現在までの小学校国語教科書の復刻版や参考資料を展示した。

(2) 図書館通信「螢窓」

2024年度は、4月号(春号)のみを発行し、教員を知る「窓」の役割を担う「研究室訪問」を継続しているほか、「学生選書ツアー」紹介、「教員推薦図書」の欄を設けて学生に教員の研究成果(出版物)及び図書館の新着図書を紹介している。

(3) 学生によるWeb選書

2024年度は、「Web選書」を春(6月)と秋(11月)に2回実施した。学生が図書館に置いてほしい、或いは卒業論文執筆用の文献などを71冊選んだ。参加した学生は計11名である。選ばれた図書は整備を経て、図書館一階の学生選書の専用書架に配架されている。

3. 自己点検・評価

- (1) 2024年度は、一階を閉館せざるを得ない状況となったことが、学生に学びと成長の機会を提供することを困難にした。学生が授業ではなく自ら図書館を訪れ、学生選書を読み、実習に必要な絵本・紙芝居を選べる機会を確保すべきである。
- (2) 図書館蔵書の特色の一環として始めた「アンデルセン絵本コレクション」の構築は、長期にわたって継続収集する必要があるものである。しかし、予算の削減及び図書館運営形態の変化により、冊数の増加及びテーマの拡充において影響を受けている。現状での収集の継続と特色の強化を次年度の課題の一つである。
- (3) 次年度は展示コーナーの内容をより充実すると共に、各種企画事業をより推進し、よりよい図書館サービスを全教職員及び学生に提供したい。

[6] キャリアサポートセンター

1. 就職・進学に関する指導や相談



(1) 新年度ガイダンスの実施

4月のオリエンテーション期間に、全学科全学年に向けてキャリアサポートセンターのガイダンスを実施した。新入生においては、大学の就職支援サイト「就活ナビ」（株式会社ディスコ提供「キャリタスUC」）の初期登録・志望先登録を済ませ、全学の学生が利用できる状態にした。

(2) 日常的な指導・相談

学生の要望に応じて面談を行い、就職活動に関する書類（履歴書、エントリーシート、推薦書等）の作成支援や面接指導、進路相談を実施した。

2. 就職活動の支援と状況把握

(1) 「就活ナビ」を用いた就職活動支援の日常化

例年通り、学生の就職活動を支援するため、「就活ナビ」上での求人票閲覧や相談予約、活動報告・進路決定届の提出、ガイダンス情報の閲覧・予約などを行った。

(2) 学科の教員との連携、教授会での情報共有

「就活ナビ」への即時入力ができない学生向けに、教員からの情報提供をもとに学生の就職活動・内定状況の把握を進めた。毎月の教授会にて全学生の内定状況を共有し、支援を呼びかけた。

3. 就職支援に関する講座等の実施

(1) 学内合同就職説明会の実施

6月27日、実践保育学科とこども学科の学生を対象とした合同就職説明会（保育所・幼稚園・施設等）を実施した。市内すべての保育施設に呼びかけ、61事業所の参加があった。学生は約70名の参加であった。短大1・2年次及び大学3・4年次の学生は就職募集、大学1・2年次はアルバイト募集について聞いた。学生及び事業所へのアンケートでは、大多数が意義を感じていることがわかった。

(2) 授業等を通じた就職対策講座の実施

大学では、2年次必修科目「キャリアを考えるⅡ」を通して、リクルートとマイナビの担当者による低学年向けの就職準備講座を計2回実施した。また、3年次選択科目「キャリア形成とインターンシップⅠa・b」「キャリア形成論」にて、リクルート、マイナビを招き、就職対策講座を実施した。また、こども学部及び実践食物学科において「就活スタートアップセミナー」を開催し、面接対策講座や模擬面接などに重点をおいて指導した。留学生向けにはTOEICやBJTの受験支援や対策講座を実施した。

短大では、1年次科目「大学で学ぶ」や2年次科目「社会人になるには」において、履歴書・自己PR・志望動機の指導、卒業生や専門家の話を聴いたうえでライフプランを具体化する学習などが行われた。

4. キャリア教育の推進／インターンシップ支援

(1) キャリア形成に関する講座の実施

例年のように、センター所属教員を中心に各学科の実情・要望に応じて、インターンシップへの橋渡し、専門職として働くことや生きることに通ずる講座・講義が実施された。特に、大学においては、学外講師（無償）を積極的に招き、例えば、こども学科2年



次必修科目「キャリアを考える」では、東大阪市立障害児者支援センター、株式会社関通（ハッピーテラス俊徳道）、NPO 法人さをりひろば、自衛隊などの学外講師からキャリア構想に通ずる講義を受けた。また、4 年生後期には、社会人としての基礎知識を養う卒前講座（学外講師による保険・生活設計・貯蓄・投資など）を行った。

（2）インターンシップ支援の促進

インターンシップ支援に関しては、大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所（就活ファクトリー）、私立幼稚園及び民間企業との連携体制を確保し、担当教員とも協力しながらインターンシップ支援を継続している。

5. 就職先の開拓・拡充／教職員による研修等の参加／センターとしての事業開拓

学生の就職先を開拓・拡充するため、大学推薦制度の導入や東大阪市の就活ファクトリーとの連携強化、学内の国際交流センターとの情報交換も密にした。例年通り、職員による各種就職フェアへの参加、大阪私立短期大学協会就職問題研究会の役員会及び研修会、情報交換会などへの出席も行った。今年度も、3 月 1 日にインテックス大阪にて開催された「マイナビ就活エキスポ」に大学相談ブースを開設し、現地での学生支援も行った（学生の参加者数は 18 名であった）。

2024 年度から続き、月 1 回昼休みに「学内ミニガイダンス」を開催した（実施月は 5・6・7・10・11・12・1 月）。参加企業・園・法人は延べ 112 事業所、学生の参加者数は延べ 161 名であった。ミニガイダンスから内定に結びついた学生もあり、参加団体にも好評であった。また、ミニガイダンスとは別に、大阪市教育委員会、豊中市教育委員会、警察による小規模説明会、陸上部の学生（6 名）に特化した就職説明会、留学生に特化した就職説明会なども実施することができた。

6. 自己点検・評価

- （1）学生の来室が増え、就職・進学に関する状況把握や指導・相談のしやすさへとつながった。
- （2）「就活ナビ」から進路希望届や内定報告を行うことが定着した。入力しない学生への支援・指導については、個別支援や学科との連携のもとで解決できるようになった。
- （3）就職支援に関する講座等の開催は、各学科との連携のもと充実した。公務員試験の結果、教員採用試験合格者が大学で 3 名（小学校教諭 2 名、保育士 1 名）、短大で 1 名（中学校教諭）であり、警察試験合格者が大学で 1 名、自衛官合格者が短大で 1 名あった。
- （4）キャリア教育の推進／インターンシップ支援については、それらに特化したカリキュラムにおいて、高等教育に必要な知識・体験・活動への橋渡しを行っている。授業との連携は例年になく活発に行われた。
- （5）就職先の開拓・拡充／教職員による研修等の参加については、限られた人員ではあるが、可能な限り行った。今後、企業の就職先の拡充に向けて、具体策を講じて取り組む。

〔7〕基盤教育研究センター



I. 成果と課題

1. 初年次教育として関連授業や講座の実施

昨年同様、入学予定者には「入学前教育」として各学科が用意した学習内容を入学前に取り組むようにした（下記3（1）を参照）。初年次教育としては、大学及び短期大学部1年次科目の「大学で学ぶⅠ・Ⅱ」を通じて、レポート作成の技術、ラーニング・スキル（学び方の技術）、メールの送り方、社会問題への言及など、大学生としての教養を磨くための学習が展開された。

2. 「就職に直結する学力」と関わる授業の実施

大学及び短期大学部2年生は、それぞれ「キャリアを考えるⅠ・Ⅱ」や「社会人になるにはⅠ・Ⅱ」を通じて、就職意識の涵養と、働くこと・生きることを結びつける学習活動を実施した。

また、介護福祉学科では介護福祉士国家試験対策講座、実践食物学科では栄養士実力認定試験対策講座、国際教養こども学科ではTOEICやBJTなどの受験支援・対策講座を活発化してきた。こども学科では3・4年生の科目「キャリア形成とインターンシップⅠa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb」を通して、就職に直結する基礎学力の向上が図られた。（詳しくは、キャリアサポートセンターの事業報告を参照）

3. リメディアル教育として次の学習活動を計画・実施した。

（1）全学科の入学予定者を対象とした入学前教育の実施について

すべての学科において、学科の特性を生かした課題を入学生に提示し、取り組んだ。「ひがドリ」（基本）をはじめ、学科独自の課題を準備し、入学前後で切れ目のない学習の実現を図った。入学生に対する聴きとり調査からは、その意義も提出された。

（2）「ひがドリ」（ラインズドリル）を用いた、国語や数学またはSPIの学習継続について

就職採用試験時に基礎学力を問う問題が課される職やSPIが課される職に就こうとする学生は、「ひがドリ」のSPIを活用した。また、大学・短期大学部いずれにおいても、基礎学力判定テストを平均年2回実施し、学力の推移を把握したうえで学生指導に役立てた。

（3）各学科・各部署と連携した学生の学習状況・学習課題・学習要求の把握について

今年度も、各学科における学生の学習全般に関する意見交流を継続的に行ってきた。各学科の代表学生（1年次生）に聴きとり調査を行い、基盤教育に関する事業の是非を問うことも始めた。その声をもとに、事業の改善を行うことができています。

入学前教育に関して入試広報課、情報教育推進委員会と連携し、入学予定者への郵送物の送付、「ひがドリ」「学びの泉」のアカウント付与を行うことができた。



4. 日常的な実践・研究を通じた具体的かつ意味のある教育方法の調査と提案について

ここ数年、「就職に直結する基礎学力」（自己理解に基づき自己表現ができ、他者から寄せられる要望にどう応えるかと考えられる能力）の向上に向けた具体策を講じてきた。外部人材・無料講座の活用も積極的に考慮し、自衛隊、社会福祉法人、障がい児者の自立支援事業に従事する団体など、発達援助に関する職種の方々からの講義が充実しつつある。

II. 自己点検・評価

1. 初年次教育に関しては、入学前と1年次の2年間として把握し、入学前後の学習内容の充実を検討する。
2. リメディアル教育に関しては、「ひがドリ」の方法論、他の学習ツールの可能性を探りつつ実践する。
3. 「就職に直結する基礎学力」の向上に向けた授業実践・研究を重ね、関連部署であるキャリアサポートセンターとの連携をさらに強める。

〔8〕保健センター

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、常時連携しながら「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制で、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動 などを実施した。新型コロナウイルス、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎ほか様々な感染症には、基本的な感染症対策を続けながら対応した。保健室及び学生相談室の活用について、多くの学生・教職員に周知を図るよう努めた。そして、保健センターの各種業務状況は、定例の教授会で逐次報告した。

1. 感染症対応

文部科学省・厚生労働省の基本方針に則り、学生支援部と連携しながら本学に適切な方法で取り組んだ。具体的には、適切な換気の確保、手洗い等の手指衛生や咳エチケット等、教育研究活動に支障を生じさせることなく両立が可能な対策について継続して実施した。

(1) 毎日、学生・教職員及び学内各部署からの発熱者や体調不良者の報告を受け対応した後、学生支援部及び各学科長に報告した。留学生の情報は、国際交流センターとも共有した。

(2) 学内で使用する手指衛生に必要なエタノールは保健室で準備した。

2. 健康診断

学生は、オリエンテーション期間である4月4日と4月5日の2日間、教職員は6月5日と6月6日の2日間、法令に基づく定期健康診断を実施した。学生健康診断の受診率は99%、教職員の受診率は93%であった。健康診断実施中は、保健センター以外の大学教職員にもご協力を頂き安全に速やかに誘導をおこなった。また、健診実施に関する問題点を明確にし、健診業者との綿密な協議を重ね、実施・事後措置の充実を図った。定期健康診断後、有所見者には問診・再検査・精密検査・生活指導等をおこない、健康に対する自己管理を支援した。



3. 外傷・疾病・健康相談への対応

保健室では学生・教職員に医療機関へ行くまでの応急処置をおこなった。また、保健室及び学生相談室の両方において、さまざまな疾病についての相談（メンタルヘルスを含む）を実施した。保健室は、月曜日～金曜日の9:15～17:30に開室した。学生相談室は、月曜日と水曜日の12:00～16:00に開室した。その他、村上学園フェスタなど、学園の行事において保健室を開室し救護待機の対応をおこなった。保健室及び学生相談室の月別利用者数を、表1と表2に示した。

表1 保健室		(令和7年03月31日現在)											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生本人から	実人数	28	28	42	40	13	13	43	22	11	23	8	4
	延べ回数	40	36	56	57	15	15	64	28	17	41	13	4
学生本人について 教職員から	実人数	0	0	1	1	0	2	1	0	1	1	0	0
	延べ回数	0	0	3	1	0	2	1	0	2	1	0	0
保護者から	実人数	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	延べ回数	1	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
サインスタンプラリー		3	—	—	—	—	—	4	4	15	0	0	0

表2 学生相談室		(令和7年03月31日現在)											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生本人から	実人数	0	2	3	6	閉室	閉室	2	1	5	9	10	閉室
	延べ回数	0	2	4	6			3	2	5	9	14	
学生本人について 教職員から	実人数	2	1	2	8			4	3	2	3	0	
	延べ回数	2	1	2	8			5	3	2	3	0	
保護者から	実人数	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
	延べ回数	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
サインスタンプラリー・見学		39	58	72	46			21	86	25	0	0	

4. 保護者面談

学生の心身の健康管理・維持・増進のための様々な支援をおこなうには、保護者からの情報提供も大切である。入学式当日に新入生保護者面談をおこない、学生の心身の健康に関する相談を受けた。学生の情報（疾病、障がい、アレルギーなど）については、学生本人及び保護者の同意を得て担当部署の教職員、校医などと共有し、入学後の学生生活支援に活用した。また、保護者からの問い合わせについて丁寧に対応した。

5. 啓発活動

感染症・喫煙・飲酒・薬物に関する健康教育は、保健センター員が、所属学科や授業担当科目の中で適宜実施し、保健センター会議で共有した。また、学生が、保健室や学生相談室の場所を知り、気軽に来室できるように、4月半ばから「サインスタンプラリー」をスタートした。サインスタンプラリーとは、学生が保健室や学生相談室を訪れて看護師・カウンセラーに直接会い、お話しをして、サイン・スタンプを受け取る小さなイベントである。このサインスタンプラリーにより、複数の学生が「保健室は以前から良く知っていた。このサインスタンプラリーで、学生相談室があることを知った。気軽に話しを聴いてもらえると感じた。」とアンケートに記述した。なお、保健室は、学生健康診断事後措置業務が多く、このサインスタンプラリーについては可能な範囲で対応した。



6. 進路支援

学生生活に不安を抱えている学生や配慮の必要な学生等、障がいがあると考えられる学生のために、障がい者枠の就職情報等の各種情報提供書類を集めて整理した。

7. 自己点検・評価

- (1) 学生・教職員の健康診断を高い受診率で実施できた。来年度は、100%を目標に受診案内を続ける。
- (2) 基本的な感染症対策をおこない、教育研究活動に支障を生じさせることがない状態を継続できた。来年度は、授業教室内の二酸化炭素濃度と室温の関係を精査し、より快適な授業環境の確保をおこなう。
- (3) 4 月半ばからスタートした「サインスタンプラリー」は、学生相談室を知らない学生や、訪問したくない苦手な場所であると思っている学生に新たな提案ができた。

〔9〕こども研究センター

1. 「こども広場」

平日 月曜日～金曜日 午前9:30-11:30 午後13:00-15:00 予約制 定員：親子20組

○「こども広場」利用者一覧表

令和6年度		補助金用資料(親子で遊ぶ含む)						5歳以上内訳									
月次	日数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	5歳	6歳	小学生	参加組数	保護者	こども	地域	大学	短大	
4月	16	51	47	68	6	8	13	2	3	8	145	147	193	12	0	0	
5月	22	41	86	74	10	4	6	4	1	1	180	181	221	14	0	0	
6月	21	37	89	81	21	5	4	0	1	3	195	195	237	13	0	4	
7月	21	39	99	68	23	18	22	7	3	12	200	200	269	14	0	0	
8月	17	42	84	51	36	30	30	10	3	17	180	192	273	15	0	0	
9月	20	38	97	59	43	8	4	3	0	1	198	204	249	13	2	0	
10月	23	45	105	57	54	11	9	3	4	2	222	226	281	6	9	31	
11月	18	50	90	41	51	8	9	8	0	1	193	193	249	8	20	40	
12月	18	73	96	39	57	3	8	7	0	1	219	226	276	9	5	21	
1月	18	42	102	44	59	8	13	9	1	3	219	223	268	9	0	0	
2月	17	54	125	56	57	1	1	0	0	1	245	245	294	8	0	0	
3月																	
計	211	512	1020	638	417	104	119	53	16	50	2,196	2,232	2,810	121	36	96	
														253			

※2/29 (木) までの集計



これまで、おやつ代として1回につき100円の利用料を徴収していたが、子育て支援事業の拡充に伴い、今年度より利用料を無料とした。このことにより、毎日の利用や、午前・午後と続けての利用に繋がるなど明らかに利用者が増加し、コロナ禍前の人数に戻りつつある。

地域の親子が利用し、楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを提供した。

毎月の制作活動や身体測定、ふれあい遊び、体操、絵本の読み聞かせ、季節の行事など、各月ごとに保育内容を工夫した。

特に、毎月の制作活動は、その月によって小さな子どもでも保護者と一緒に作る事を楽しめるもの、保護者の方がじっくりと制作に取り組めるもの、季節や行事に合わせたものなど、月ごとに内容を工夫した。

○毎月の制作内容

実施日	内容	組数	こども数
4/15～18	こいのぼりスタンド	27	31
5/20～23	麻ひもの簡単ミニかご	23	28
6/17～20	あじさいのクリアカード	30	36
7/8～11	クリアキーホルダー	32	36
8/5～8	センサリーボトル	37	54
9/17～20	フェルトのどうぶつ指人形	29	35
10/7～10	ハロウィンカップ	34	38
11/18～21	毛糸ポンポンのトムテサンタ	41	55
12/9～12	お正月の吊るし飾り	34	39
1/20～23	キラキラ☆万華鏡	38	42
2/17～20	おひなさまスタンド	43	47
3/10～13	モールフラワー		
計		369	420

2. 「親子で遊ぼう」 土曜日（月1回）

父親や祖父母、兄弟が参加しやすく家族そろっての参加が多い。また、平日のこども広場は来られない方や、以前こども広場を利用されており、今は保育所や幼稚園・小学校に行っている方などの参加もあり、地域に定着してきたことを感じる。

月	内容	組	こども数
4	絵の具であそぼう（デカルコマニー・フィンガーペイント）	12	18
5	石けん粘土であそぼう	12	16
6	英語であそぼう	17	20
8	水遊び・造形遊びをしよう	13	18
9	ネームガーランド作り	13	17
10	親子ヨガ	6	7



12	英語で遊ぼう	13	15
1	お正月遊び	14	20
3	人形劇観劇会（人形劇団クラルテ）		
計		100	131

3. 「こども応援ひろば」

(1) こども応援ひろば 2024 パート I

- ・ こども学科の学生との共催で、「みんなで作ろう『こどもまんなかひろば』」をテーマに、学生がSDGsを意識したゲーム・ダンス等の遊びのブースを担当した。
- ・ こども研究センターでは、自由に写真撮影ができるフォトブースを設置すると共に、小さな子どもが休憩できるスペースとして、赤ちゃんも遊べるおもちゃなどを用意した。また、例年、乳児が楽しめる遊びが少ないという声があったので、滑り台やトンネル、ボールプールなどを設置し、赤ちゃんでも身体を動かして楽しめるコーナーで学生が子どもとかわるようにした。
- ・ 今年度は全学科から遊びや体験のブースを出展して頂き、また企業の出展も充実しており、参加者からは時間が足りないくらい楽しかったとの感想を頂いた。

(2) こども応援ひろば 2024 パート II

- ・ 奈良フィルハーモニー管弦楽団による「奈良フィル0歳児からの音楽会」を実施した。公演タイトルの通り、赤ちゃんから大人まで楽しめるコンサートで、参加者からは「生で音楽演奏を聴ける機会があり、とてもありがたい」「子どもがじっとできないが、ウロウロしながらでも音楽を楽しめて良かった」「とても貴重な機会なので今後も続けてほしい」などの感想を頂いた。

日 時	内 容	組数	こども数
7/13 (土) 10:00~13:00	こども応援ひろば 2024 パート I 「みんなで作ろう『こどもまんなかひろば』」	105	173
2/8 (土) 10:40~12:00	こども応援ひろば 2024 パート II 「奈良フィル0歳児からの音楽会」公演会	61	80

4. 自己点検・評価

- ・ 大幅に利用人数が増え、毎日にぎやかに過ごしている。毎日利用してくれる方も多く、親子共に仲良くなった人も多い。また、毎月保育士によるベビーマッサージを実施している事で0歳児の利用も増えている。

情報発信においては、これまでのLINEとHPでの情報発信に加え、Instagramを開設し、毎週末にこども広場の様子やイベント案内などを発信している。フォロワーも順調に増え、効果的な発信ができていると感じる。

- ・ 「親子で遊ぼう」は、時期や内容によって参加人数のばらつきはあるが、「家ではできない遊びが楽しめた」などの感想を頂き、家族で楽しめる場として効果が高いと感じる。



また、今年度は英語遊びやネームガーランド作りのワークショップなど、外部講師を招いて実施する機会も増えた。今後も、参加したいと思えるような魅力的な内容を企画していきたい。

- ・ 「こども応援ひろば」については、こども広場の利用者だけでなく近隣の幼稚園・保育園・公共施設へのチラシ配架によって知って下さった方の参加もあり、多くの方楽しんで頂く事ができた。中には市外からHPを見てきて下さった方もいる。続けて参加して下さる方も毎年新鮮に楽しめるよう、今後も内容の工夫をしていきたい。
- ・ 情報発信の手段として、HPやSNSを活用しているが、中には「正門前の掲示板を見て来ました」「保健センターや福祉事務所で聞きました」「友だちに誘われて」など、デジタルでの情報発信だけでなく、地域の口コミでの広がりも多く感じる。掲示板の飾りを季節ごとに換え、イベント案内を掲示するなど、より見てもらえるような掲示板作りにも努めている。
- ・ 今後も地域の親子が集う拠点としての役割を意識し、より安心して集い楽しむことができる運営のあり方を考えていきたい。

ピクニックランチ(4, 5, 10, 11, 3月)	季節の行事(プール遊び)
	
制作(1月 キラキラ☆万華鏡)	親子で遊ぼう(12月 英語で遊ぼう)
	
こども応援ひろば 2024 パートⅠ	



こども応援ひろば 2024 パートII(奈良フィルハーモニー管弦楽団「奈良フィル0歳児からの音楽会」)



[10] 異文化交流室

1. チューター制度

異文化交流室では、チューター学生の活動を組織化し支援している。チューター活動は、留学生と日本人学生がともに充実した学校生活を送り、様々なイベントを企画・実施する中で、異文化に対する理解を深め、自己成長を遂げることを目的としている。

令和6年度は4月に大学・短期大学にチューター公募をして各学科から選出して7名のチューターによる活動を始めた。本年度は留学生との日本文化を中心とした交流会を定期的に行った。

前期にはチューター主催イベントとして、七夕のイベントと飾り付けを学内の学生用スペースで行った。

開催日：2024年7月3日（金）、場所：8号館1階学生ラウンジ





2. 留学生、学生、卒業留学生、卒業生、チューター、教員参加の交流会

第4回異文化交流フットサルワールドカップ大会を開催した。敬愛高校の職員、附属幼稚園の保護者を含め9チーム合計76名以上が参加した。

開催日：2024年11月24日（日）、場所：東大阪大学敬愛高校フットサルコート

3. 地域の学生との交流促進・各種語学関連のスピーチコンテストの支援として

第8回東大阪大学弁論大会を開催（本学学生と留学生・地域の学生が参加）

本年度は参加者18名（本学8名、東大阪大学柏原高等学校9名、大阪府立福井高等学校1名）

弁論部門は自作原稿、朗読部門は課題文制で募集を行った。

受賞結果

第一位：日本語弁論「モンゴルについてどれくらい知っていますか」

大阪府立福井高等学校1年 Tuvshintugs Sar-Erdene

（トゥブシングルス サラー エルデネ）

第二位：日本語弁論「漢字の便利さ」

東大阪大学柏原高等学校国際科2年 袁 野（エン ヤ）

第三位：日本語弁論「成長した私」

東大阪大学短期大学部介護福祉科2年 TRAN THI BICH NGOC

（チャン ティ ビック ゴック）

特別賞：日本語朗読「じゅげむ」

東大阪大学柏原高等学校国際科1年 陳 子軒（チン シケン）

特別賞：日本語弁論「日本人の思いやり」

東大阪大学国際教養こども学科4年 TRINH THI HIEN（チン ティ ヒエン）

開催日：2024年11月24日（日）、場所：8号館832教室



4. 第6回国際お料理大会



テーマ「世界のカレー料理」に沿ってレシピ考案から調理までを行い、見た目や味を競った。本年度の参加は6組となり、東大阪大学柏原高等学校3年生からも1組が参加した。

開催日：2024年12月15日（日）9:30-14:00 場所：814教室



5. 国際交流センター共催クリスマスパーティ

留学生交流のためのクリスマスパーティを開催しランチとともにゲーム、歌やダンスを楽しんだ。

開催日：2023年12月18日（水）12:00-13:00 場所：国際交流センター



6. 自己点検・評価

今後は、本学の学生・留学生の学業を支えるチューターの活動を継続しつつ活発な交流を行い、それぞれの学科の特徴を引き出した異文化交流室の活動にも繋げていく。

また、各国の学生とも繋がり、言語や社会を見つめる場を交流室として企画していき、多くの方々が参加できる地域貢献を推進する。

[11] 産官学地域連携室



1. 東大阪市連携6大学公開講座

令和7年2月18日（火）に東大阪市男女共同参画センター・イコーラムにおいて、『「人生100年時代」を健康に生きるために』を共通テーマに東大阪市教育委員会主催の「東大阪市連携6大学公開講座」が開催され、松田 依果実践食物学科准教授が講演しました。

2. マリンバとピアノと歌のSDGs名曲コンサート

令和7年1月23日（木）に、東大阪大学こども学部こども学科と共催でマリンバとピアノと歌のコンサートを開催した。

3. 自己点検・評価

東大阪市との連携事業が公民連携協働室を通して情報共有がスムーズに行えるようになったことから、大学の特色を活かした地域発展のために貢献できる取り組みを実施することができた。

[12] 公開講座

1. 令和6年度公開講座

社会貢献の取り組みとして公開講座を計画・提案し、大学・短期大学の学科より11講座を設定し、地域連携として一般の方々による参加の募集を行った。

昨年度に引き続き、前半5講座・後半6講座の開催としたが、これまでのオープンキャンパス同日開催はスタッフ対応等に苦慮したこともあり、その多くを単独開催とした。

内訳

■参加者数：10名

実践食物学科	2024年5月18日（土）10時～12時	松井欣也	教授
タイトル	災害時の備え～能登半島地震から考える～		
内容	防災に対する「心構え」や「予備知識」をもとに減災できる可能性を模索。災害時、簡単にできる「パッキング」を体感。		

■参加者数：3名

実践食物学科	2024年7月20日（土）10時～12時	松田依果	准教授
タイトル	生きる力を育む乳幼児期の「食育」とは。		
内容	乳幼児期に必要な食育。そのメリットやポイントについてわかりやすく解説を行った。		

■参加者数：5名

実践食物学科	2024年7月20日（土）10時～12時	松井欣也	教授
タイトル	昆虫食～虫ってどんな味？		



内容	食用昆虫の必要性について確認し、食用昆虫を使った料理やお菓子の試食を体験。
----	---------------------------------------

■参加者数：20名

こども学科	2024年7月28日（日）15時～16時	矢島 彰	教授
タイトル	デジタルものづくり		
内容	パソコンで3Dモデリングにふれ、立体を作る体験を行った。親子での参加が多く見られた。		

■参加者数：6名

実践保育学科	2024年8月18日（日）10時～11時30分	北條妙子	講師
タイトル	親子でヨガ（マインドフルネス）をしてみよう		
内容	親子ヨガを楽しんだ後は、保護者向けに呼吸の瞑想（マインドフルネス）を実施。「穏やかなところ」について共に考えた。		

■参加者数：10名

実践食物学科	2024年8月24日（土）10時～12時	紀平佐保子	講師
タイトル	骨の健康を考える～防ごう！骨粗しょう症～		
内容	骨粗しょう症を予防し、骨の健康を保つための食生活や生活習慣について分かりやすく解説された。		

■参加者数：26名

国際教養 こども学科	2024年8月24日（土）14時～15時30分	藤井みゆき	准教授
タイトル	NPO 多言語・多文化サポート ICHI「多言語ワークショップ」		
内容	複数の国の方から、日常のシチュエーションで使える言語と文化を楽しく学び、コミュニケーションを深めた。		

■参加者数：29名

実践保育学科	2024年9月08日（日）13時～14時15分	篠原理恵	教授
タイトル	ピアノとおはなしコンサート Part3—ベートーヴェン先生とピアノ—		
内容	ベートーヴェン先生の人生を辿りながら、おはなしを交えてピアノ演奏を楽しんだ。		

■参加者数：23名

国際教養 こども学科	2024年10月20日（日）13時～14時30分	井原幸治	教授
タイトル	暮らしを豊かにするお金の知恵の経済学～賢い節税術から年金計画まで～		



内容	賢い節税術や効果的な資産運用、将来の年金計画についてわかりやすい解説がなされた。
----	--

■参加者数：32名

実践食物学科	2024年11月10日（日）10時～12時	岡本貴司	准教授
タイトル	ショコラフランボアーズケーキを作しましょう。		
内容	ココアスポンジケーキを焼成。ラズベリームースとチョコレートムースも作り、グラサージュショコラで仕上げた。		

■参加者数：9名

介護福祉学科	2025年1月18日（土）10時～11時30分	介護福祉学科全教員
タイトル	認知症サポーター養成講座	
内容	認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に応援者として気遣いをする在り方について理解を深めた。	

2. 自己点検・評価

今年度は各講座の担当教員による強い要望で、オープンキャンパス日程と組み合わせない単独開催としたところも多かった。結果的にゆとりある講義内容で良好な結果となった。

公開講座は、学校近辺に住まわれている方々が事前に電話問い合わせをして参加する傾向があり、その点で一定の受講者数は保障されている。

しかし、公開講座を開く意義としては、全体の集客率を上げること今年度の目標に掲げ、ちらしをこども研究センターや附属幼稚園、近隣小学校（2校）、近隣中学校（3校）へ設置ご協力いただき、本学徒歩15分圏内の近隣宅へのポスティング（300件程度）を行い、微増ではあるが新規申込数につながった。

本年度よりFAXによる申し込み受付を終了し、ネットもしくは電話による申し込みとしたが、事務処理上はスムーズな受け入れ態勢となった。

受付を前半（春）と後半（秋）に分けたことは、東大阪市生涯学習情報誌等での受講情報に掲載しやすく、受講者の予約忘れ等の減少にもつながったようである。

今後は駅前広告等の有効活用も視野に入れ、本学の各学科・コースを十分に活かした魅力ある内容で地域の皆様に参加を頂き、学び共感いただく機会を継続することで、本学認知への広報としても強化していきたい。

[13] FD・SD委員会

令和6年度は、計画1.「授業方法について」を中心に以下の研修会を実施した。

1. 第1回FD・SD研修会

講演：次期導入学務システム（候補）のデモンストレーション実施について

講師：電翔・学びと成長しくみデザイン研究所



日時：11月18日（月）9:30～12:30

場所：8号館5階大会議室

内容：現在本学は学務システムおよび学修ポータルとして GAKUEN EX・ユニバーサルパスポート EX（JAST）を使用しているが、当該システムは2026年3月にて保守期限が終了する。これに伴い、セキュリティアップデートおよびサポートの終了、ハードウェアおよびミドルウェアの更新にも対応しなくなるため、使い続けることが困難になる。そのため、システムの新規調達を目指しており、当該システム後継の GAKUEN RX・ユニバーサルパスポート RX 以外にも広く選択肢を求めるため、同等機能を有し、コスト的にも見合うと思われるシステムのデモを FD・SD 研修会にて行った。

出席者：教員7名 職員15名

アンケート提出者：教員5名 職員11名

2. 第2回 FD・SD 研修会

講演：次期導入学務システム（候補）のデモンストレーション実施について

講師：プラスアルファコンサルティング・日本ビジネス開発

日時：11月27日（水）15:00～17:00

場所：8号館5階大会議室

内容：第1回研修会と同じ目的で、別の業者を迎えて研修会を行った。学務システムの新規調達を目指し、GAKUEN RX・ユニバーサルパスポート RX 以外にも広く選択肢を求めるため、同等機能を有し、コスト的にも見合うと思われるシステムのデモを実施した。

出席者：教員7名 職員8名

アンケート提出者：教員7名 職員4名

3. 第3回 FD・SD 研修会

講演：授業動画の youtube 配信

講師：矢島彰 教授

日時：3月12日（水）13:00～14:15

場所：9号館3階 932 教室

内容：大学の me time 導入によりオンライン授業が増え、土曜日オンライン授業もかなりの数になることから、研修会を企画した。PowerPoint ファイルから音声録音動画の作成、youtube での配信、字幕の挿入、修正・更新作業を含む内容の研修。教員からはとても役に立ったとの意見が多数あった。

出席者：教員22名 職員2名

アンケート提出者：教員20名 職員0名

4. 自己点検・評価

本年度は事業計画のうち「授業方法についての研修会」のみの開催となった。次年度は「配慮の必要な学生への対応」、「留学生の教育・指導」など優先順位の高いものから実施していく。



[14] 国際介護福祉学研究センター

1. 論文誌の発行

東大阪大学短期大学部国際介護福祉学研究センターにおける逐次刊行物として論文誌「多文化と介護」を創刊した。本論文誌の発行が、2024年度本センターの中心的な事業であった。

2. 介護福祉学ランチョンセミナー実施

2023年度に引き続き、ランチョンセミナーを実施した。週1回、昼休みの時間を利用し、センター員が中心となって、研究発表などを行った。又、昨年度同様、参加は誰でも可能とし、他学科との交流も活発に行った。

3. 介護福祉学科との公開講座共同開催

昨年度に引き続き、本学の公開講座として介護福祉学科において、認知症サポーター養成講座を開いた。

4. 村上学園介護相談室の設置

村上学園教職員限定ではあるが、介護相談室を開設した。周知の問題もあり、相談件数は0件であった。

5. 自己点検・評価

定期刊行物を創刊することによって、本センターの研究成果を広く内外へ発信することが可能となった。事業計画では、地域の介護福祉施設に対しても広く投稿を募り、学術的な情報発信に加え、介護実践の取り組みの内外への発信のハブとなることを目指し、施設職員からの投稿を得た。

ランチョンセミナーの実施も4年目に入り、安定的に開催している。来年度以降は、本ランチョンセミナーを起点とした、新しい研究へとさらに発展させていく必要がある。

研究センターも関わる公開講座として、地域に根付いていくプロセスとなる1年であったと評価できる。来年度以降も安定的な公開講座を実施し、地域における研究センターのプレゼンスを向上させていく必要がある。

村上学園に所属しているという、インセンティブ、帰属意識の向上と社会的に喫緊の課題である介護の問題について相談室を設けた。次年度以降はさらなる周知を行い、実績を上げたい。

[15] 教養教育委員会

令和6年度は、「在学生の各種語学資格取得方案の策定と促進」、従来の留学生・渡日生の日本語習得に加え、日本人学生の英語学習に関して、以下の取り組みを行った。

1. 定期語学試験

「国際教養こども学科定期語学試験」の実施において、前期の取り組み結果から、英語習得段階に差があり、特にリスニングに苦手意識のある日本人学生がいることがわかったため、基礎教養知識の習得を内容に含む科目において、基礎英語文法の復習や簡単なリスニング練習などの取り組みを行なった。留学生に対しては、受験結果と各問の



解答状況を JLPT 受験に向けた学習の目安とし、日本語学習の意欲向上につとめた。

2. スピーチコンテスト（弁論大会）

留学生・渡日生に対してスピーチコンテスト（弁論大会）への参加を促した。

3. 自己点検・評価

本年度のスピーチコンテストへの本学学生の参加数は前年度に比して増加した。日本語習得が初級段階の学生も、選考対象ではないが日本語詩の朗読に参加した。一方、日本人学生による英語スピーチには、今後の課題が多く見いだされた。本年度も、異文化交流室・国際交流センターによって留学生・渡日生と日本人学生が互いの言語を習得し交流を深めていけるような交流会が企画・実施されたことは、国際交流活動への学生の意欲を高めたと見られる。

海外短期留学の企画及び国内外の教育機関と共同開催形式のオンライン講演会・交流は、教養教育委員会として実施できなかったが、国際交流センターによる海外の高校生と交流企画のサポートを行った。学生が現代の社会問題に関心を持ち、国際的視野をもって考察できるよう折に触れて指導・支援を行いつつ、上記の企画実施に取り組む。

[16] IR 委員会

令和5年度の学生生活に関するアンケートについて集計・分析・評価を実施し、令和6年度の学生による授業評価アンケート及び学生生活に関するアンケートを実施した。

1. 自己点検・評価

学修成果の見える化についての成果を得るために、学生カルテ及び学生ポートフォリオの作成・利用状況の検討を行う必要がある。



Ⅲ. 学園財務の概要

1. 事業活動収支計算書（令和4年度から令和6年度）（単位 千円）

（教育活動収入の部）	令和6年度	令和5年度	令和4年度
学生生徒等納付金	1,363,499	1,372,140	1,402,731
手数料	25,288	27,669	27,921
寄付金	15,714	15,543	22,061
経常費等補助金	855,221	800,860	813,968
付随事業収入	113,867	98,401	118,739
雑収入	99,559	72,253	49,758
教育活動収入計	2,473,088	2,386,866	2,435,180
（教育活動支出の部）			
人件費	1,441,386	1,499,018	1,546,107
教育研究経費	908,044	914,229	948,685
管理経費	346,606	414,394	431,251
徴収不能額等	1,621	7,200	5,726
教育活動支出計	2,695,997	2,834,840	2,931,770
教育活動収支差額	4,843	△447,974	△496,590
（教育活動外収入）			
受取利息・配当金	27,399	17,878	49,917
その他の教育活動外収入	-	-	-
教育活動外収入計	27,399	17,878	49,917
（教育活動外支出）			
借入金利息	22,555	21,825	21,121
その他の教育活動外支出	-	-	-
教育活動外支出計	22,555	21,825	21,121
教育活動外収支差額	4,843	△3,946	28,797
経常収支差額	△218,066	△451,920	△467,794
（特別収入）			
資産売却差額	6,850	20	987
その他の特別収入	3,666	61,026	3,325
特別収入計	10,516	61,046	4,313
（特別支出）			
資産処分差額	16,084	221	732
その他の特別支出	557	2,744	703
特別支出計	16,641	2,965	1,436
特別収支差額	△6,125	58,081	2,877
基本金組入前当年度収支差額	△224,191	△393,840	△464,917
基本金組入額合計	△162,714	△364,560	△174,460
当年度収支差額	△386,906	△758,400	△639,377
前年度繰越収支差額	△6,547,481	△5,789,081	△5,149,704
基本金取崩額	0	-	-
翌年度繰越収支差額	△6,934,387	△6,547,481	△5,789,081
事業活動収入計	2,511,002	2,465,790	2,489,409
事業活動支出計	2,735,193	2,859,630	2,954,326



2. 貸借対照表（令和4年度から令和6年度）

（単位 千円）

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
固定資産	11,607,370	12,224,520	12,448,173
流動資産	567,214	339,033	649,742
資産の部合計	12,174,584	12,563,553	13,097,916
固定負債	1,631,812	1,784,285	1,929,623
流動負債	685,832	698,137	693,322
負債の部合計	2,317,644	2,482,422	2,622,944
基本金の部合計	16,791,327	16,628,613	16,264,052
繰越収支差額の部合計	6,934,387	△6,547,481	△5,789,081
負債及び純資産の部合計	12,174,584	12,563,553	13,097,916

3. 財務比率（令和4年度から令和6年度）

（単位 %）

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
人件費比率	57.6	62.3	62.2
人件費依存率	105.7	109.2	110.2
教育研究経費比率	36.3	38.0	38.2
事業活動収支差額比率	△8.9	△16.0	△18.7



東大阪大学・東大阪大学短期大学部

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

TEL (06) 6782-2824 FAX (06) 6782-2896